

# 学会活動から

## 地盤工学用語辞典の改訂作業状況と出版にあたって

—2005年3月の出版を目指して—

### 地盤工学用語辞典改訂編集委員会

#### 1 はじめに

現在、地盤工学会の用語集関係の出版物は「土質工学用語辞典（1985）」、「土質工学標準用語集（1990）」および「岩の工学用語解説集（1973）」の3冊である。これら3冊を一本化し、「地盤工学用語辞典」として、2005年3月に出版するための準備が“地盤工学用語辞典改訂編集委員会”で進められている。なお、改訂編集委員会のメンバーは、表—1に示すとおりであり、実際の執筆は、数名で構成される21の執筆委員会が担当している。表—2に担当する章の名前と執筆委員会委員長を示す。

本文では、3冊を一本化するという経緯、編集方針、ならびに編集の状況を紹介する。

#### 2 改訂編集委員会立上げの経緯

1997年、「土質工学標準用語集」、「岩の工学用語集」の見直しが始まった。見直しの結果、次のような基本方針となった。1)両者を一体化して「地盤工学標準用語

集」として出版する、2)既存の土質工学用語シソーラス（案）の見直し作業と改正結果に基づき標準用語を選定・解析する、3)用語は標準用語として学会が定め、解説をつけて「地盤工学標準用語集」とする。

上記の作業工程中に、地盤工学表記法検討委員会において、「土質工学標準用語集」と「土質工学用語辞典」の関係についての議論が生じた。すなわち、「学会としての相違は明確であっても、一般会員からすれば両者の違いは不明瞭であろう。また、分冊化されている点も利用者の便宜という点で不便であろう。さらに、最近の学問の進歩に照らして、両者とも内容がやや古くなっていたり、記述に間違いがあるなどの問題も挙げられている。そこで、将来の改訂時には両者を統合して出版することが望ましい。」というものである。関連各部への打診

表—2 章名称と解説執筆委員会委員長

章 名 称	委員長	所 属
1 一般	善 功 企	九州大学大学院工学研究院
2 地質と地形	長谷川修一	香川大学工学部
3 土の物理 化学的性質	堀内 澄夫	清水建設(株)技術研究所
4 土の分類	中村 裕昭	(株)地域環境研究所
5 浸透と地下水	竹下 祐二	岡山大学環境理工学部
6 土圧と支持力	日下部 治	東京工業大学大学院理工学研究科
7 土の圧縮と圧密	今井 五郎	横浜国立大学大学院工学研究院
8 地盤材料のせん断	森谷 啓	神戸大学工学部
9 斜面安定	山上 拓男	徳島大学工学部
10 地震と土の動的性質、 23 地盤防災	國生 剛治	中央大学理工学部
11 岩の性質	清水 則一	山口大学工学部
12 地盤調査と計測	田中 洋行	北海道大学大学院工学研究科
13 構造物の基礎	桑原 文夫	日本工業大学工学部
14 土留めと掘削	海野 隆哉	長岡技術科学大学工学部
15 土工	三嶋 信雄	川崎地質(株)
16 路床と路盤	小山 幸則	(株)鉄道総合技術研究所
17 トンネル	成田 国朝	愛知工業大学工学部
18 水利構造物	山本 修司	(株)沿岸技術研究センター
19 港湾と海岸構造物	寺師 昌明	(株)日建設計中瀬土質研究所
20 地盤改良	建山 和由	立命館大学理工学部
21 施工機械	川地 武	滋賀県立大学環境科学部
22 地盤環境		

表—1 地盤工学用語辞典改訂編集委員会

会 務	氏 名	所 属
委員長 (1)	善 功 企	九州大学大学院工学研究院
幹事 (13, 18)	片 桐 雅 明	(株)日建設計中瀬土質研究所
委員 (用語)	伊 貝 聡 司	大成基礎設計(株)
委員 (10, 23, 14)	内 田 明 彦	(株)竹中工務店技術研究所
委員 (7)	大 島 昭 彦	大阪市立大学大学院工学研究科
委員 (22)	大 山 将 将	(株)鴻池組技術研究所
委員 (8)	桑 野 玲 子	(株)土木研究所
委員 (6)	古 関 潤 一	東京大学生産技術研究所
委員 (4)	後 藤 聡	山梨大学工学部
委員 (17)	小 西 真 治	(株)鉄道総合技術研究所
委員 (3)	小 峯 秀 雄	茨城大学工学部
委員 (5)	竹 下 祐 二	岡山大学環境理工学部
委員 (15, 16, 21)	建 山 和 由	立命館大学理工学部
委員 (12)	田 中 政 典	(株)港湾空港技術研究所
委員 (11)	谷 和 夫	横浜国立大学工学部
委員 (2)	仲 本 治	(株)建設企画コンサルタント
委員 (19, 20)	林 健太郎	五洋建設(株)
委員 (9)	若 井 明 彦	群馬大学工学部

註 会務欄の( )は担当する章を示す

調整の上、1999年11月の基準部会で統合の方針が承認された。

3冊の用語集 辞典を実際に統合するとなると、その基本方針、内容、構成、執筆形態、用語の選定、著作権など、多くの課題が存在する。そこで、本格的な改訂編集作業を始める前の準備段階として、2001年度に「地盤工学用語辞典（仮称）改訂編集準備委員会（以下、準備委員会と称す）」が1年間の活動期間として設立された。そこでは、実際に改訂編集していくための体制やスケジュール、編集方針、用語の選定、著作権の調査から執筆要領までが検討された。

その検討結果を踏まえて、本委員会が2002年7月から活動し始めた。準備委員会で概略検討された結果を確認 修正しなから、2002年12月には21の執筆委員会を立上げ、本格的な改訂編集作業が始まった。

### 3 掲載する用語と編集方針

準備委員会において、次の五つの出版物から、用語を選択し、現行の地盤工学用語辞典の章ごとに分類された。

- ① 土質工学標準用語集（1420語、1990年）
- ② 標準キーワード（404語）
- ③ 土質工学用語辞典（約4500語、1985年）
- ④ 地盤工学ハンドブック（約2600語、1999年）
- ⑤ 岩の用語解説集（701語、1973年）

なお、「レキシコン」からも用語を収集した。また、地盤環境など新たな分野の用語も収集 分類した。

収集した用語は、見出し語となるAランク用語、解説の中で用いられる用語となるBランク用語、解説に使用するかどうかは執筆者の判断にゆだねられるCランク用語に分類された。準備委員会で取りまとめた各ランクの用語数は次のとおりであり、総数は6754語にのぼった。

A ランク用語	2446
B ランク用語	3424
C ランク用語	874

また、編集方針は次の点で特徴となっている。

- 1 現用語辞典を踏襲するか、進歩した技術や新分野の用語も極力取り込む。
- 2 現在使われている用語は網羅することを主とするか、死語（過去において使われていたもの）も掲載する。
- 3 標準用語には、定義を明記する。
- 4 新たに記述する解説は、400～800字の範囲とする。
- 5 索引は、日英/英日のみとし、限られたページ数の中で本文を充実させる。

1 に関しては、近年の話題である地盤環境問題、地震/土石流などに対する地盤防災を新たに独立した章とし、その中味の充実を図った。

### 4 編集の状況と今後の予定

2005年3月の出版を目標に、各執筆委員会とも予定どおりに進んでおり、現時点（2004年10月末）では、本文原稿のほとんどを印刷会社に入稿したところである。

今後の編集作業は、ケラによる原稿の確認 修正、索引の編集などで、予定どおりに運ぶものと思われる。

### 5 おわりに

2005年3月の出版を目標とした地盤工学用語辞典は、総勢110名に及ぶ執筆者 編集者の手によって進められている。それに先立ち、1年間に9回もの打合せを行い、用語の選定、本委員会の方向性やスケジュールなど、精力的に活動いただいた準備委員会のメンバー、基準部の方々ならびに関連する委員会があったからこそ、予定どおり進んでいる今の用語辞典の編集状況がある。

事務局を始め、本用語辞典の編集 出版に関係した多くの方々に感謝して本文を締めくりたい。

（文責 善 功 九州大学大学院、

片桐雅明 ㈱日建設計中瀬土質研究所）

（原稿受理 2004 11 11）